

令和5年度

# 畜産行政の概要



令和5年11月  
鳥取県農林水産部畜産振興局

# 目 次

I	鳥取県の畜産の現状	1
II	令和5年度畜産関係予算の概要	9
	1 県及び農林水産部予算の概要	9
	2 畜産関係予算の総括	9
	3 令和5年度畜産関係予算の概要	10
III	令和5年度畜産振興のための事業一覧	12
IV	令和5年度事業概要	14
	(1) 職員人件費	14
	(2) 畜産課管理運営費	14
	(3) 鳥取県和牛振興戦略基金	15
	(4) 鳥取県和牛増頭改良推進事業	16
	(5) 鳥取県和牛肉質日本一奪還に向けた総合戦略事業	17
	(6) 県優良種雄牛造成事業	18
	(7) 鳥取和牛出荷体制構築推進事業	19
	(8) 畜産経営緊急救済事業	20
	(9) 畜産経営安定対策事業	21
	(10) 生乳増産対策支援事業	22
	(11) 生乳需要緩和対策事業	23
	(12) 鳥取地どり増羽対策人材育成等事業	24
	(13) 肥料国産化に向けた施設整備事業	25
	(14) 第16回全日本ホルスタイン共進会対策事業	26
	(15) 酪農第三者継続モデル事業	27
	(16) 公共育成牧場施設維持管理業務	28
	(17) 家畜保健衛生所管理運営費	29
	(18) 家畜衛生総合対策事業	30
	(19) 特定家畜伝染病危機管理対策事業	31
	(20) 鳥インフルエンザ等家畜防疫施設整備事業	32
	(21) 農場認証普及推進事業	33
	(22) 獣医師確保対策事業	34
	(23) 畜産試験場試験研究費	35
	(24) 鳥取和牛肉うまみ開発試験	36
	(25) 牛の精液供給事業	37

(26)	畜産試験場管理運営費	37
(27)	中小家畜試験場試験研究費	38
(28)	鳥取地どりピヨの改良試験	39
(29)	中小家畜試験場管理運営費	40
(30)	豚出荷施設新設事業	41
V	農畜産業振興機構の畜産業振興事業	42
1	畜産業振興事業とは？	42
2	令和5年度に鳥取県で実施が見込まれる畜産業振興事業の一覧	42
VI	地方競馬全国協会の畜産振興補助事業	45
1	畜産振興補助事業の概要	45
2	畜産振興補助事業の現状	45
3	鳥取県で実施している畜産振興補助事業	45
VII	畜産関係のリース事業	46
1	畜産関係リース事業の概要	46
2	各リース事業の内容	48
(1)	畜産整備リース事業	48
(2)	畜産近代化リース事業	50
VIII	令和5年度畜産関係融資制度	54
1	用途別に見た制度資金一覧表	54
2	資金の概要	55
3	畜産特別資金一覧表	57
4	家畜疾病経営維持資金一覧表	58
IX	令和5年度畜産・酪農経営安定対策	59
X	畜産関係行政機構図及び畜産関係団体	60
1	畜産関係行政機構図	60
2	畜産関係団体一覧	62
	参考資料	63
1	農業概要	63

(1) 土地及び耕地	63
(2) 農業の現況	63
(3) 農業産出額と生産農業所得	64
(4) 家畜飼養頭羽数及び畜産物生産量	65
(5) 市町村別飼養頭羽数	66
2 県内農業産出額及び類別構成	67
3 家畜飼養農家数及び飼養頭羽数の推移	68
(1) 肉用牛	68
(2) 乳用牛	68
(3) 豚	69
(4) 鶏	69
4 家畜のせり市場動向	70
(1) 和牛子牛せり市場成績及び県外移出状況	70
(2) 乳子牛せり市場成績及び県外移出状況	71
5 畜産物の流通動向	72
(1) 肉畜の生産出荷状況	72
(2) 食肉の卸売価格の推移	73
(3) 生乳の需給状況及び価格の動向	74
(4) 鶏卵の生産流通及び価格の動向	75

# I 鳥取県の畜産の現状

- 日本の畜産業は昭和30年代以降、人口の増加、所得の向上等による需要増加に支えられ、順調に発展し本県でも畜産農家数及び家畜飼養頭羽数は急激に増加した。しかし、昭和50年代に生乳・豚肉・鶏卵・鶏肉の供給量が需要量を上回ると、次第に計画生産体制へと移行することとなった。
- 本県の家畜飼養頭羽数は酪農では昭和40年代、肉用牛では昭和30年代、養豚・養鶏では昭和60年代をピークに減少している。また、畜産農家戸数については各畜種とも小規模層を中心に減少しているものの、飼養規模の拡大や畜産企業の増加に伴い一戸当たりの飼養頭羽数は増加している。
- 近年の国内の生産基盤強化の動きもあり、鳥取県でも肉用牛や乳用牛、ブロイラーの飼養頭数は増加傾向にある。鳥取県の令和3年の農業産出額727億円のうち畜産に係る産出額は289億円（全体に占める割合は約39%）となっており農業産出額の多くの割合を占めている。

鳥取県の農業産出額の推移

(単位:百万円)

区 分	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	
農業産出額	76,400	76,500	74,300	76,100	76,400	72,700	
うち畜産産出額	27,000	27,500	27,700	28,600	29,000	28,900	
内	肉用牛	4,400	4,800	5,100	5,400	5,400	6,000
	乳用牛	7,200	7,100	7,800	7,900	8,100	7,900
訳	豚	5,200	5,400	4,700	4,500	4,600	4,500
	鶏	10,200	10,200	10,100	10,600	10,800	10,400

◆農業産出額の内訳（令和3年）

(単位：億円)



総産出額(全体) 727億円

畜産 289億円

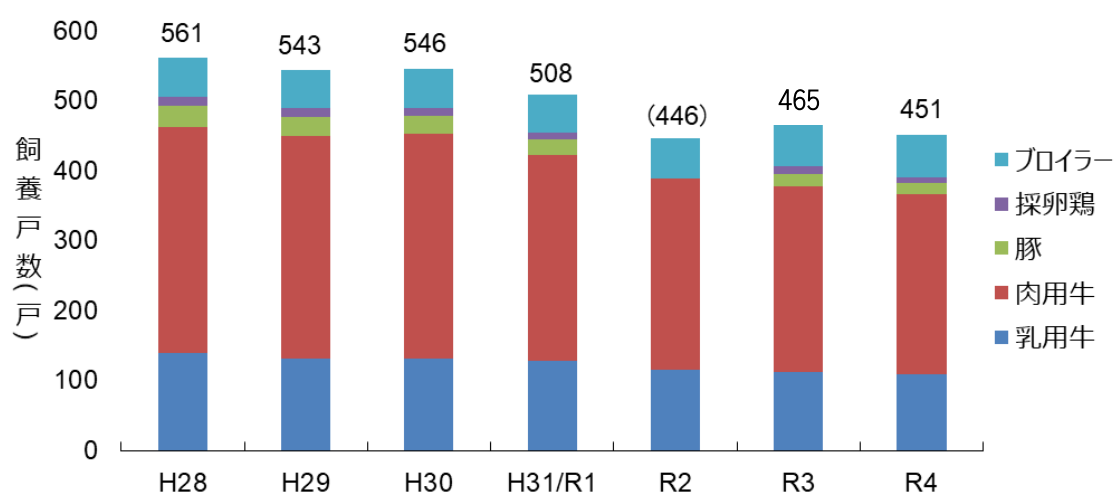
※統計数値については、集計時に四捨五入等の処理により、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

## 畜産農家戸数の推移

(戸)

区分	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
乳用牛	140	131	132	128	115	112	109
肉用牛	323	319	320	295	274	265	257
豚	29	26	26	21	—	18	16
採卵鶏	14	14	12	11	—	11	8
ブロイラー	55	53	56	53	57	59	61
<b>合計</b>	<b>561</b>	<b>543</b>	<b>546</b>	<b>508</b>	<b>(446)</b>	<b>465</b>	<b>451</b>



注：R2は『農林業センサス』実施年のため豚及び採卵鶏調査はなし。

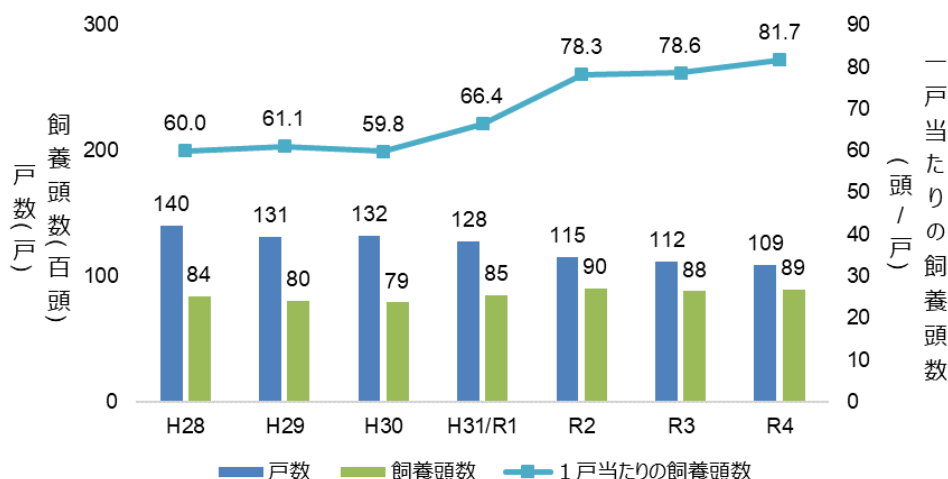
\*ブロイラーについては、平成23年以降は県畜産振興課調べの数値。

資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

## 酪 農

- 総飼養頭数は小規模農家の廃業により平成8年以降緩やかに減少を続け、平成13年から平成18年までは一時増加に転じたものの、その後減少が進んだ。ただ近年は大規模農場の整備など規模拡大の動きもあり、平成31（令和元）年以降は増加傾向にある。
- 1戸当たり飼養頭数は平成28年には減少に転じていたが、専門化による大規模経営の増加に伴い平成31年以降は増加傾向にある。
- 生乳生産量は、飼養頭数の増加に伴い令和2年以降は約6万トンを超えている。
- 平成15年4月から、県産生乳は全量が県内で牛乳や乳製品に加工され、県内外に出荷されている。また、県内乳業再編等により、酪農専門農協1農協・1工場体制（市乳）となった。

乳用牛の飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

### 酪農経営の推移

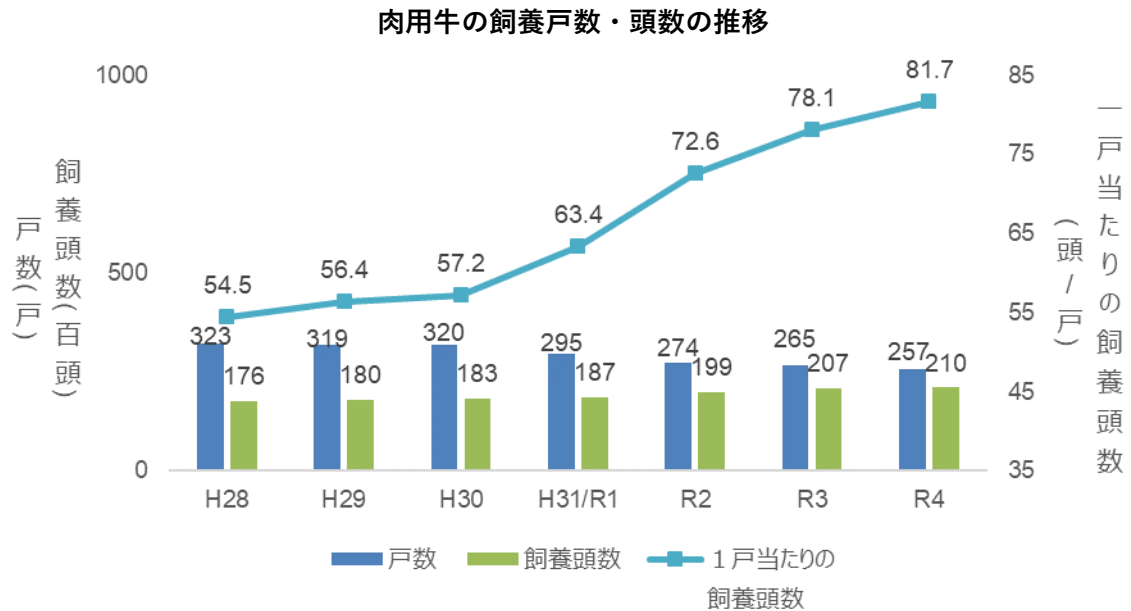
		H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
乳用牛産出額	(億円)	72	71	78	79	81	79	-
うち生乳	(億円)	64	63	65	68	73	70	-
生乳生産量	(t)	56,451	56,105	57,121	59,245	61,130	60,706	60,526
生乳生産者価格	(円/kg)	103.8	104.1	104.2	108.1	114.6	114.8	116.1

※令和4年の算出額は令和5年11月時点で未公表であるため「-」としている。

資料：農林水産省統計部「牛乳乳製品統計」、畜産振興課調べ

## 肉用牛

- 総飼養頭数は昭和50年以降横ばい状況であったが、平成3年の牛肉輸入自由化後は徐々に減少した。しかし、平成29年以降は和子牛価格、枝肉価格の上昇を受け、徐々に増加している。
- 和牛子牛の年間出荷頭数は3,203頭と増加傾向で、うち県外へは1,436頭(44.8%)が出荷され、主な出荷先は兵庫県、佐賀県、香川県等である。なお、子牛価格はコロナ禍の影響による牛肉需要の低迷や飼料高騰により全国的に下落傾向であり、県内も702千円と前年度より低値となった。
- 県内の成牛のと畜頭数は5,220頭であり、県内でのと畜の他、兵庫県、大阪府、東京都でと畜されている。
- 全国トップクラスの「白鵬85の3」「百合白清2」を軸に、より優秀な次世代種雄牛の造成や、鳥取和牛のトップブランド化に向けた取組の充実を図っている。



資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

## 肉用牛経営の推移

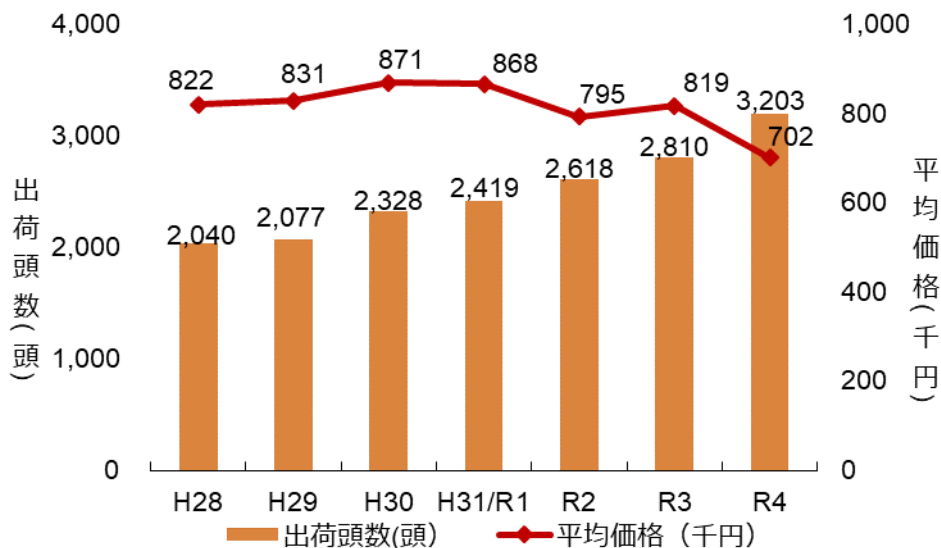
	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
肉用牛産出額 (百万円)	4,400	4,800	5,100	5,400	5,400	6,000	-
和子牛出荷頭数 (頭)	2,040	2,077	2,328	2,419	2,618	2,810	3,203
成牛と畜頭数 (頭)	6,339	6,115	5,969	5,704	5,627	5,109	5,220
和子牛価格 (千円)	822	831	871	868	795	819	702
牛枝肉単価 和牛 (去勢)	2,711	2,583	2,606	2,534	2,230	2,601	2,519
(円/kg) 大阪 乳牛 (去勢)	1,049	970	1,026	1,056	939	1,027	1,104

※令和4年の産出額は令和5年11月時点で未公表であるため「-」としている。

資料：農林水産省統計部「畜産物流通統計」、大阪市「中央卸売市場南港市場年報」、畜産振興課調べ



和子牛出荷頭数と子牛価格の推移



資料：畜産振興課調べ

## 養 豚

- 昭和30年代は小規模農家が大半であったが、昭和40年代から50年代は大規模専業経営へと発展してきた。しかし、環境問題の顕在化、更に豚肉の輸入量の増加、価格の低下等が重なり、昭和60年代以降は飼養農家が大幅に減少した。なお、この間も飼養頭数は規模拡大により増加を続けていたが、平成2年以降は農家戸数の減少に伴い減少傾向にある。
- 1戸当たりの飼養頭数は農家戸数の減少に伴い徐々に増加し、近年は横ばい傾向にあったが平成28年以降増加に転じている。

養豚の飼養戸数・頭数の推移



注：R2は『農林業センサス』実施年のため調査なし

資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

## 養豚経営の推移

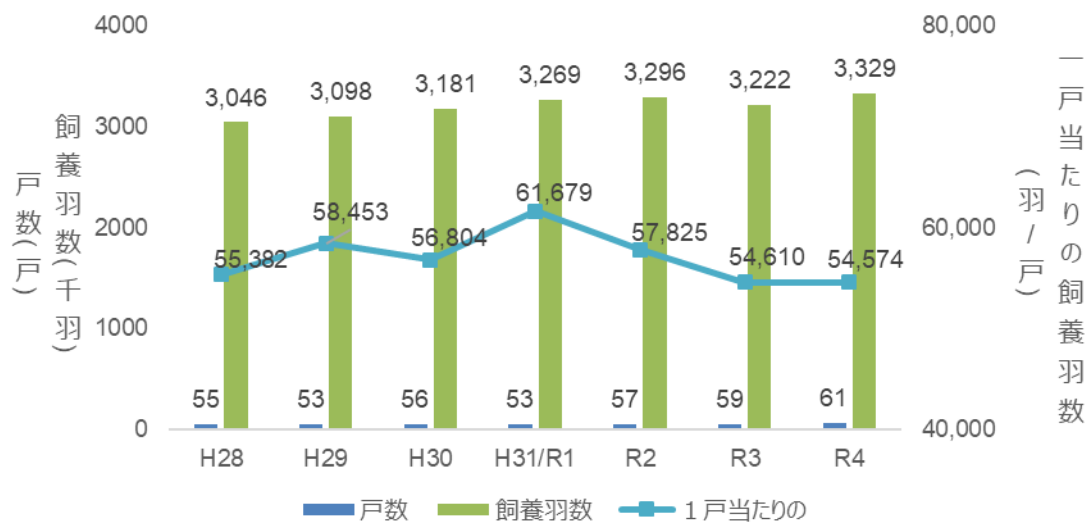
	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
養豚産出額（百万円）	5,200	5,400	4,700	4,500	4,600	4,500
豚と畜頭数（頭）	80,122	81,185	81,676	80,867	77,802	77,684
枝肉単価（円/kg）	459	499	427	439	458	427

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」、「畜産物流通統計」、枝肉単価は大阪市卸売市場平均

## 養鶏

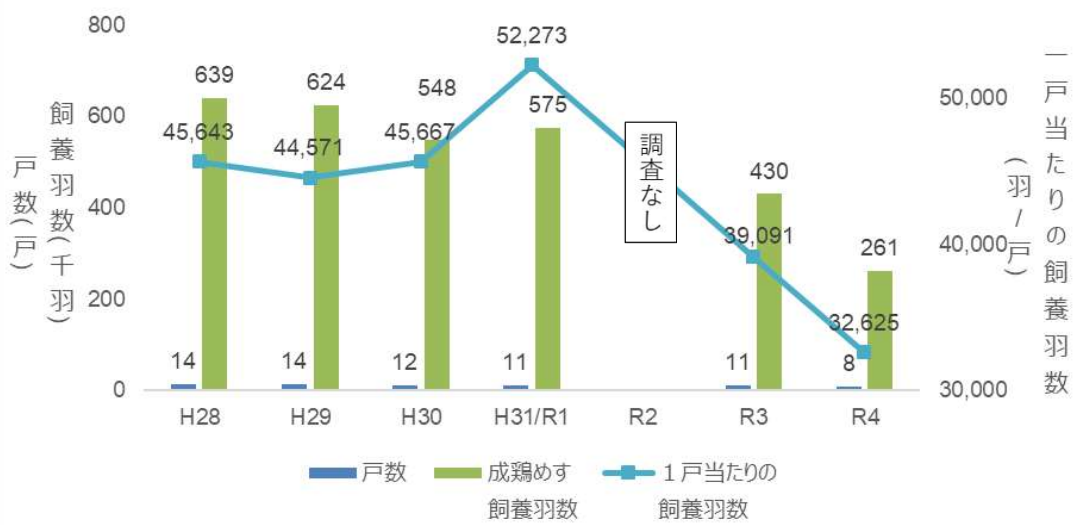
- ▶ 大消費地に比較的近いという立地条件にも恵まれ、特にブロイラーは全国屈指の生産県として発展しており、近年の飼養羽数は横ばい傾向から徐々に増羽の動きが見られる。
- ▶ 平成3年度に、県中小家畜試験場で鳥取地どりピヨが作出され、令和4年度は12,093羽が県内外に出荷されている。
- ▶ 採卵鶏は、昭和30年代頃、県下のいたるところで飼養されていたが、次第に専門化が進み昭和40年代には規模拡大・団地造成等本県の採卵鶏経営の最盛期となった。近年では、飼料価格の高騰と卵価の乱高下により、農家数が減少している。
- ▶ 近年の県内養鶏は、商系又は農協系の団体企業による大規模経営が中心となっている。

ブロイラーの飼養戸数・羽数の推移



資料：畜産振興課調べ

### 採卵鶏の飼養戸数・羽数の推移



注：R2は『農林業センサス』実施年のため、調査なし。 資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

### 養鶏経営の推移

	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
養鶏産出額 (百万円)	10,200	10,200	10,100	10,600	10,800	10,400
生産量 鶏卵 (t)	10,895	9,856	9,569	11,647	10,574	5,743
ブロイラー (千羽)	15,291	15,745	16,491	16,403	8,992	17,443
鶏卵価格 (円/kg)	210	206	189	170	171	216
ブロイラーもも肉価格 (円/kg)	621	626	595	585	623	647

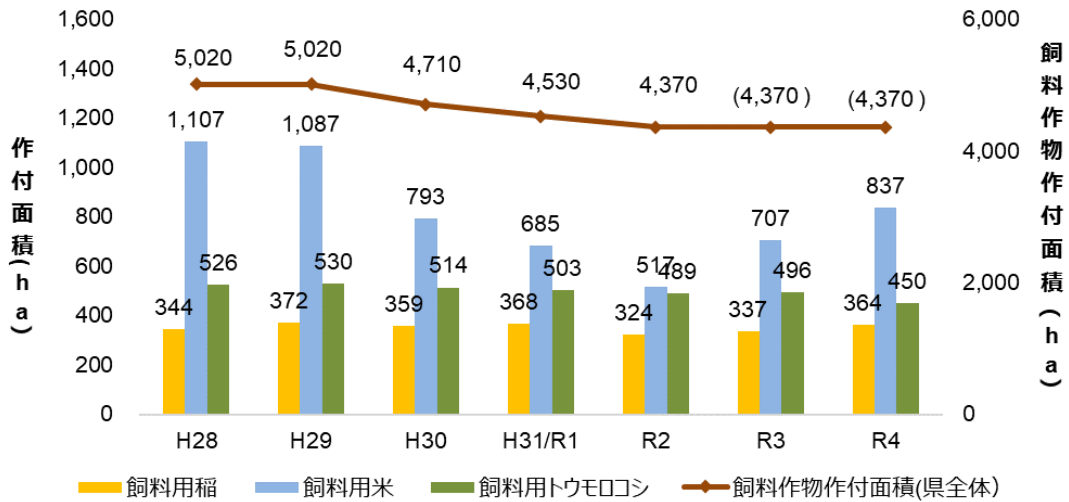
資料：農林水産省統計部「農林業センサス」「畜産統計調査」「生産農業所得統計」、鶏卵価格はJ A全農たまご大阪M基準、ブロイラーもも肉価格は農林水産省食鳥市況状況の平均

※ブロイラー生産量のR2は「畜産統計調査」が行われなかったため「農林業センサス」より抜粋。

### 飼料作物

- 飼料作物の栽培は、近年、配合飼料価格の高騰を背景に国産飼料増産の取組が推進され、生産者や団体等の関係者が一体となり飼料増産を推進してきた。平成22年以降は経営所得安定対策の充実により、飼料用稲・飼料用米の栽培が増加している。飼料用米は平成30年度以降、食用米の栽培面積が増加した影響で大幅に減少したが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による食用米の在庫量増加のため、飼料用米への作付面積が増加している。県全体での飼料作付面積は4,370haで、うち水田利用における飼料用稲栽培は365ha、飼料用米は837ha、飼料用トウモロコシは496haとなっており、コントラクター（飼料生産受託組織）が収穫・調整するという外部委託化が進められている。

### 飼料作物作付面積の推移



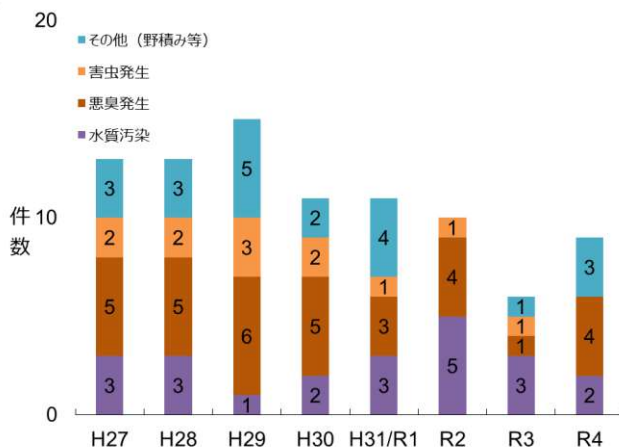
注：R3、R4の飼料用作物作付面積は統計調査未実施のためR2の面積を記載

資料：農林水産省統計部「作物統計調査」、畜産振興課調べ

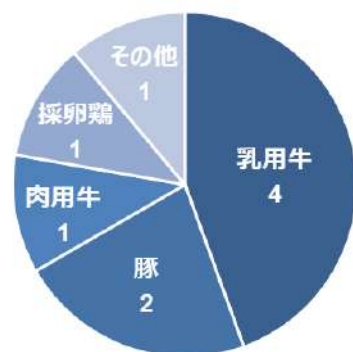
## 畜産環境問題

- 畜産経営に起因する環境問題は、急速な規模拡大に伴う糞尿処理施設の不足等により年々増加していたが、平成11年の「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」の施行に伴い、施設整備や適正な処理が進み、減少しているところである。
- 平成23年4月より水質汚濁防止法一部改正により、一定規模以上の農家については年1回以上の污水検査の実施と記録の保存が義務化され、環境負荷軽減が求められている。
- 水質汚染、悪臭発生に関する苦情が継続して発生している。

### ◆畜産環境種類別苦情発生状況の推移



### ◆令和4年畜種別苦情発生状況



資料：畜産振興課調べ（苦情件数は実数値。複数の項目に該当する場合はそれぞれでカウント。なお、各年のデータは前年の7月1日から当該年の6月30日までの1年間の発生状況を集計したもの。）

## II 令和5年度畜産関係予算の概要

### 1 県及び農林水産部予算の概要

(単位:千円、%)

区 分	令和5年度 当 初 予 算 額 (D)	令和4年度 当 初 予 算 額 (E)	増 減	対 比
			(D) - (E)	(D)/(E)
県全体予算額(A)	335,026,692	364,005,675	△ 28,978,983	92.0
農林水産部予算(B) (特別会計を除く)	20,772,007	21,934,203	△ 1,162,196	94.7
	(B)/(A)	6.2	6.0	—
畜産振興局予算額(C)	2,020,546	2,084,950	△ 64,404	96.9
	(C)/(B)	9.7	9.5	—

### 2 畜産関係予算の総括

(単位:千円、%)

区 分	令和5年度 当 初 予 算 額 (A)	令和4年度 当 初 予 算 額 (B)	増 減	対 比
			(A) - (B)	(A)/(B)
畜産総務費	688,697	675,804	12,893	101.9
うち人件費	680,459	667,566	12,893	101.9
畜産振興費	739,638	911,708	△ 172,070	81.1
家畜保健衛生費	307,965	245,948	62,017	125.2
畜産試験場費	204,163	195,350	8,813	104.5
中小家畜試験場費	80,083	56,140	23,943	142.6
計	2,020,546	2,084,950	△ 64,404	96.9

### 3 令和5年度畜産関係当初予算の概要

#### (1) 畜産総務費・畜産振興費

(単位:千円)

事業名	令和5年度 当初予算	令和4年度 当初予算	財源内訳(令和5年度)			
			国庫	起債	その他	一般財源
<b>1. 価格・経営安定対策</b>						
畜産経営安定対策事業	72,961	45,485				72,961
酪農第三者継承モデル事業	600	2,874				600
畜産経営緊急救済事業	228,968	0	228,968			
<b>2. 家畜改良増殖対策</b>						
県優良種雄牛造成事業	28,724	27,724			28,724	
<b>3. 増頭対策</b>						
鳥取県和牛振興戦略基金	245,705	283,661			245,705	
鳥取県和牛増頭改良推進事業	69,584	158,204			69,584	
生乳増産対策支援事業	18,985	12,116				18,985
鳥取地どり増羽対策人材育成等事業	1,230	0				1,230
<b>4. 指導・畜産物流通対策</b>						
畜産課管理運営費	8,238	8,238			1,900	6,338
職員人件費	680,459	667,566	1,311		2,684	676,464
<b>5. ブランド確立事業</b>						
鳥取和牛出荷体制構築推進事業	4,283	4,275			4,283	
鳥取和牛肉質日本一奪還に向けた総合戦略事業	6,577	0			6,577	
第16回全日本ホルスタイン共進会対策事業	1,061	0				1,061
<b>6. 整備事業</b>						
公共育成牧場施設維持管理業務	4,126	43,935				4,126
生乳需給緩和対策事業	46,834	0	46,834			
肥料国産化に向けた施設整備事業	10,000	0				10,000
<b>&lt;令和5年度終了(休止)事業&gt;</b>						
第12回全共出品対策事業	0	26,550				
家畜排せつ物処理施設整備推進事業	0	3,500				
畜産クラスター施設整備事業(休止)	0	303,384				
合 計	1,428,335	1,587,512	277,113	0	359,457	791,765

## (2) 家畜保健衛生費

(単位:千円)

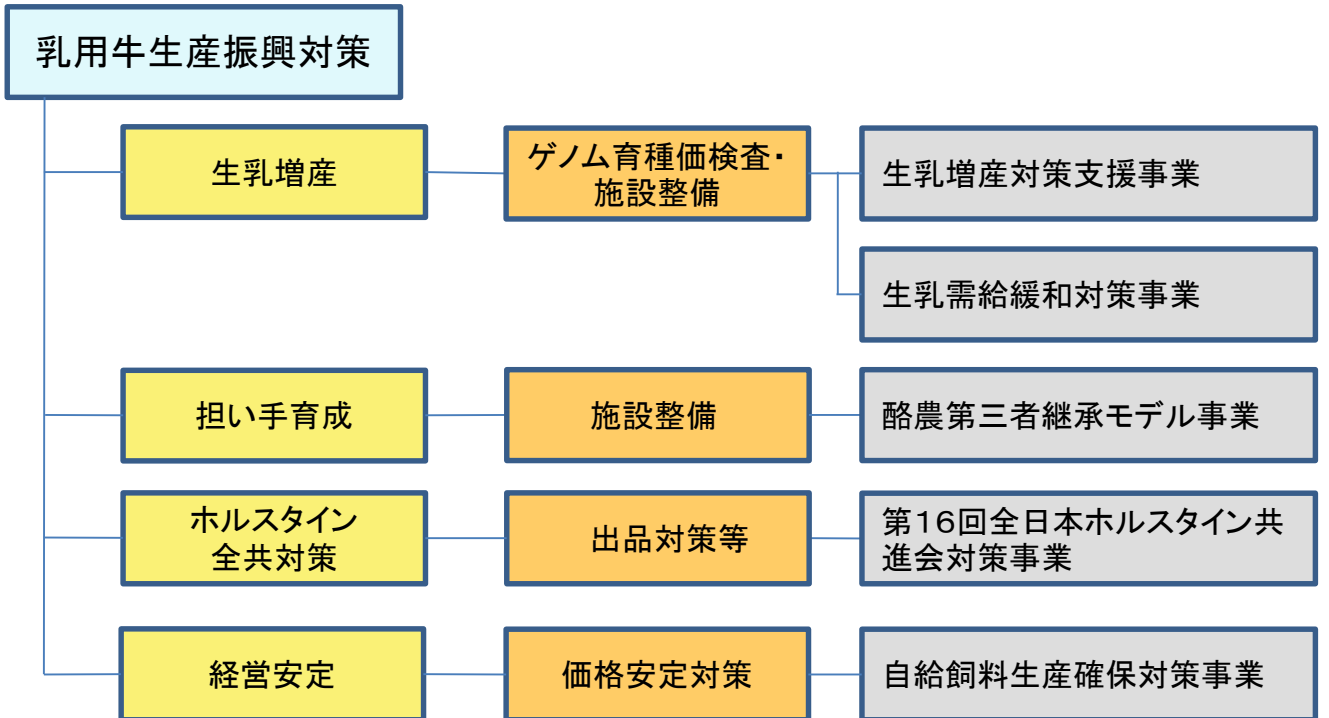
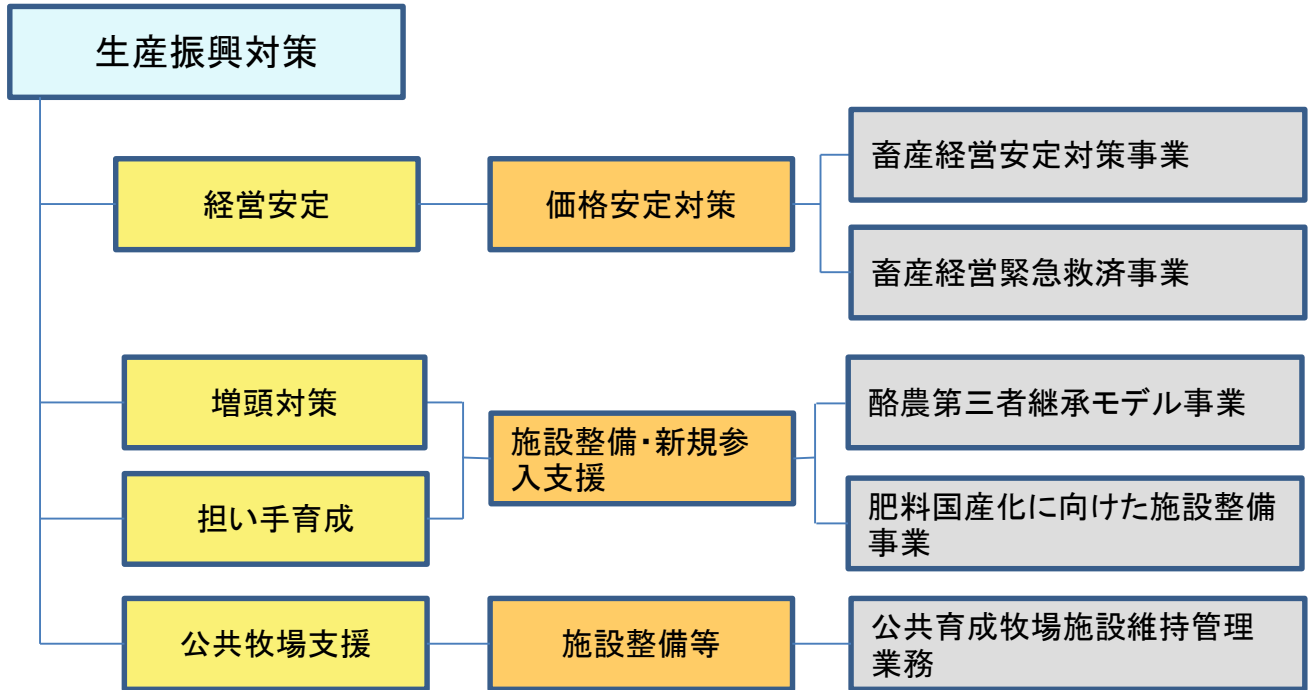
事業名	令和5年度 当初予算	令和4年度 当初予算	財源内訳(令和5年度)			
			国庫	起債	その他	一般財源
<b>家畜衛生対策</b>						
獣医師確保対策事業	2,061	2,031				2,061
家畜保健衛生所管理運営費	26,325	31,310			11,073	15,252
家畜衛生総合対策事業	44,975	37,016	25,130		111	19,734
特定家畜伝染病危機管理対策事業	132,509	131,818	59,040		8,444	65,025
農場認証普及推進事業	593	793				593
鳥インフルエンザ等家畜防疫施設整備事業	101,502	0	21,460			80,042
<b>&lt;令和5年度終了事業&gt;</b>						
豚熱ワクチン接種体制強化整備事業	0	42,980				
合 計	307,965	245,948	105,630	0	19,628	182,707

## (3) 畜産試験場費、中小家畜試験場費

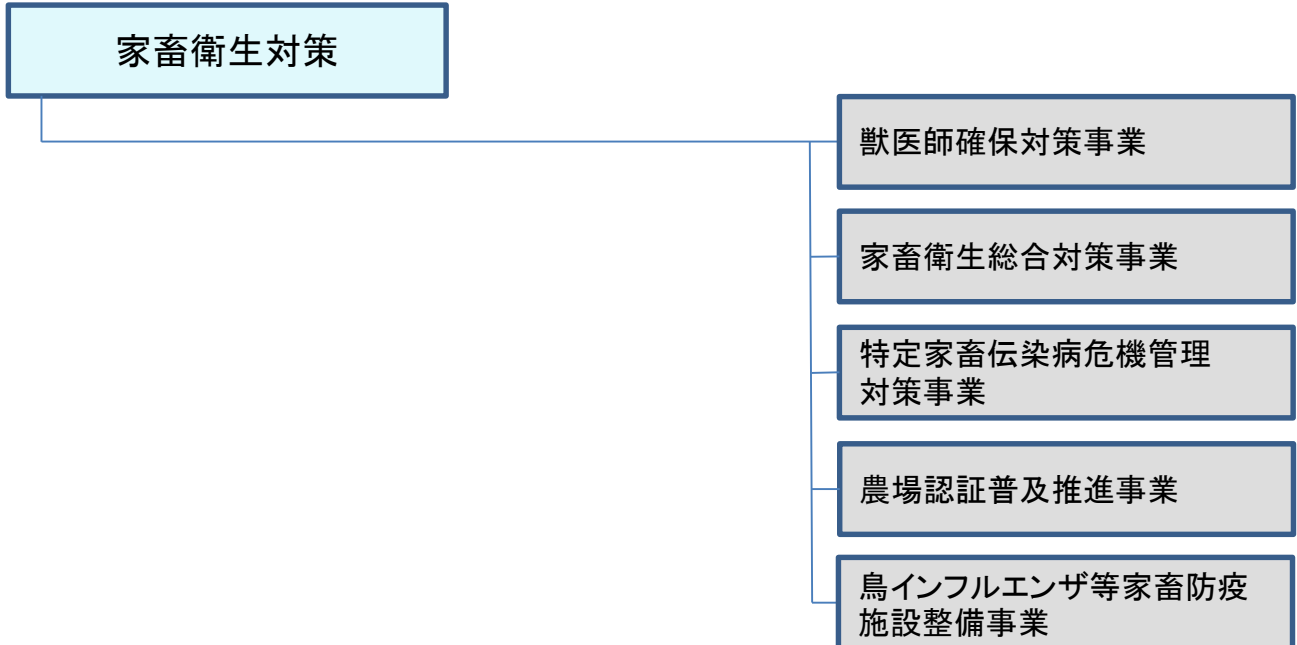
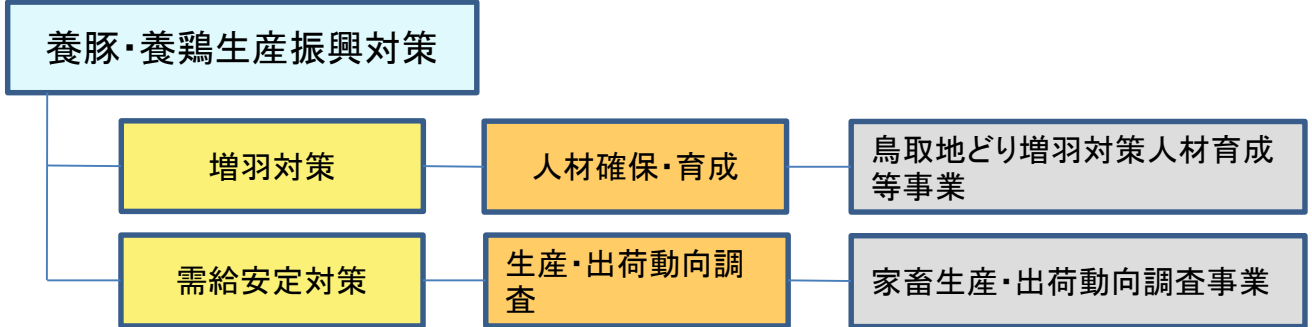
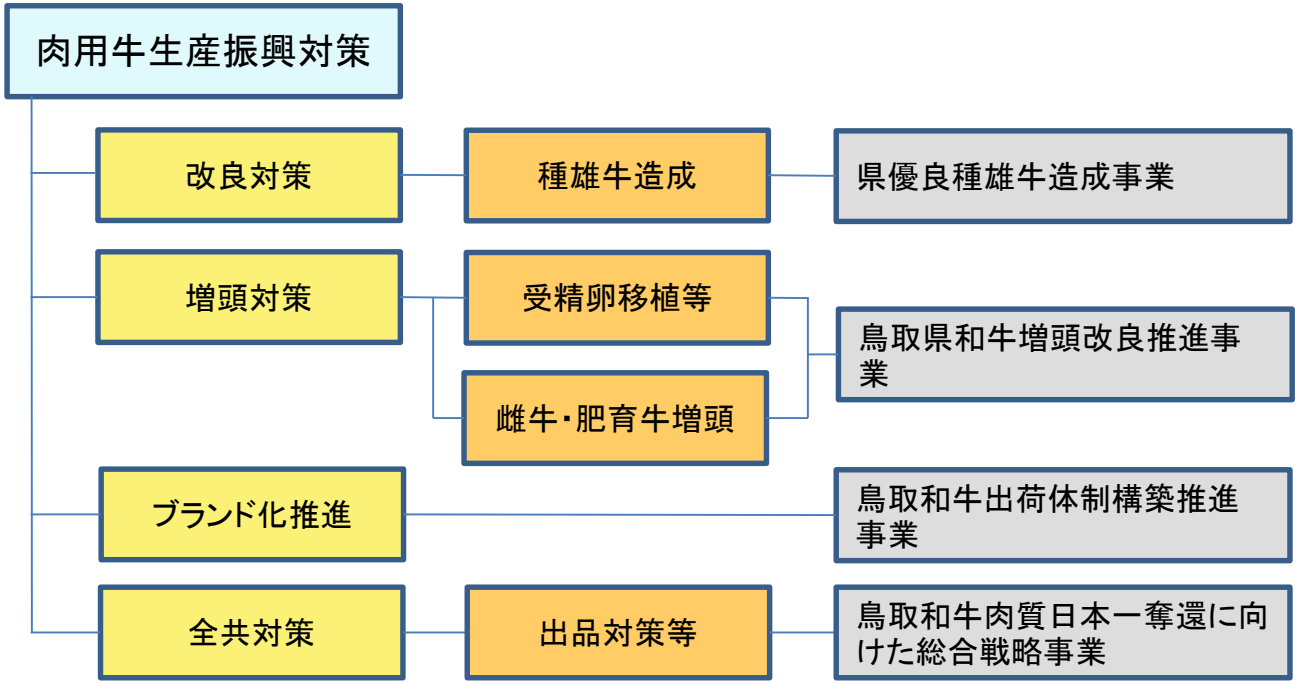
(単位:千円)

事業名	令和5年度 当初予算	令和4年度 当初予算
<b>畜産試験場費</b>		
管理運営費	13,041	15,547
施設整備費		
試験研究費	191,122	179,803
合 計	204,163	195,350
<b>中小家畜試験場費</b>		
管理運営費	20,682	19,235
施設整備費	20,690	
試験研究費	38,711	36,905
合 計	80,083	56,140

### Ⅲ 令和5年度畜産振興のための事業一覧







# IV 令和5年度事業概要

## 畜産振興課

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
職員人件費 (畜産総務費)	680,459	667,566	12,893	1,311		<受託事業収入等> 2,684	676,464	
事業内容の説明 【財源内訳の「その他」の内訳】 受託事業収入：1,714、手数料：559、雑入（社会保険料本人負担分）：411  畜産関係一般職員81名及び会計年度任用職員37名分の人件費である。								
畜産課管理運営費	8,238	8,238	0			<受託事業収入等> 1,900	6,338	
トータルコスト	34,748千円（前年度 35,050千円） [正職員：3.4人]							
主な業務内容	(1) 畜産課管理運営費（公益法人指導調整等、畜産課所管事業に伴う諸費用の執行等） (2) 畜産業振興事業事務受託事業（事業実施計画協議、適正実施指導・監督、監査及び審査等） (3) 家畜商・家畜人工授精師等免許関係事業（講習会開催、免許交付等） (4) 家畜生産・出荷調査事業（需給調査、出荷予測調査、転飼許可業務） (5) 畜産農家環境保全指導事業（総合調整等）							
工程表の政策内容	—							
事業内容の説明 【財源内訳「その他」の内訳】 受託事業収入：1,675、手数料：225								
<b>1 事業の目的、概要</b> 畜産関係機関との連絡調整・事業実施等に要する経費である。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位：千円)								
	事業名	事業内容						予算額
1	畜産課管理運営費	畜産関係機関との連絡調整業務等に係る経費						5,162
2	畜産業振興事業事務受託事業	独立行政法人農畜産業振興機構等が行う補助事業を適正に実施するための指導・監督に必要な事務等を受託する。						1,675
		事業名	委託先	予算額				
		畜産業振興事業	(畜) 農畜産業振興機構	517				
		肉用子牛生産者補給交付金等交付事業		668				
		加工原料乳生産者補給交付金等交付事業		231				
		畜産高度化支援リース事業	(一財) 畜産環境整備機構	154				
		畜産振興補助事業	地方競馬全国協会	105				
3	家畜商・家畜人工授精師等免許関係事業	家畜取引及び家畜改良に係る講習会の開催及び免許の交付を行うことにより県の畜産振興を図る。						202
4	家畜生産・出荷調査事業	肉用牛、肉豚、ブロイラー、地鶏、蜂蜜等の安定的な生産・供給による畜産振興を図るため、生産・出荷動向等の調査や、蜜蜂の転飼調整会議等を実施する。						389
5	畜産農家環境保全指導事業	「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、家畜排せつ物の適正管理について指導するとともに、家畜排せつ物の利用促進を図る。						810
合 計							8,238	

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取県和牛振興戦略基金	245,705	283,661	△37,956			＜財産収入＞ 245,705		
トータルコスト	246,485千円（前年度 284,450千円）〔正職員：0.1人〕							
主な業務内容	基金事務							
工程表の政策内容	・子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ ・「鳥取和牛オレイン55」「鳥取地どりピヨ」「大山ルビー」など、美味しい鳥取ブランドの形成							

事業内容の説明

**1 事業の目的、概要**

和牛の増頭及び改良など将来の和牛振興に向けた事業の経費に充てるため、種雄牛の精液販売収入や貸付料などを「鳥取県和牛振興戦略基金」（平成27年4月設置）に積み立てて管理する。

**2 主な事業内容**

（単位：千円）

事業内容	積立金等の内訳	予算額
基金の積立	種雄牛精液販売収入（県内）	33,891
	種雄牛精液販売収入（県外）	194,810
	種雄牛貸付料	17,000
	利息	4
合計		245,705

**3 事業目標・取組状況・改善点**

(1) 事業目標

県有種雄牛の精液への需要はコロナ禍にあっても引き続き高く、県外販売する種雄牛も追加し、2.4億円以上の販売収入を確保する。

(2) 取組状況・改善点

【基金積み立て実績】

年 度	積立額
令和元年度	260,929千円
令和2年度	244,093千円
令和3年度	363,247千円

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取県和牛増頭改良推進事業	69,584	158,204	△88,620			<基金繰入金> 69,584		
トータルコスト	83,619千円 (前年度 172,399千円) [正職員:1.8人]							
主な業務内容	補助金事務 事業実施主体との協議 調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

令和2年10月に制定した「鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例に基づき、令和3年4月に策定した鳥取県和牛振興計画の実現に向けて事業を実施し、県産和牛の遺伝資源保護や県産和牛の産業振興を図る。

2 主な事業内容

(単位:千円)

部門	補助事業名	内容	実施主体	県補助率等 (上限額)	予算額
生産	繁殖雌牛増頭加速化事業	和牛繁殖雌牛の飼養頭数の増頭のために行う雌牛購入に対し、購入費の一部を補助する。(外部導入及び自家保留)	J A	1/3 (市町村1/6)	19,648
	特定種畜肥育素牛保留対策事業	特定種畜を父または母の父とする肥育素牛を導入した場合、導入費の一部を補助する。	J A	定額80千円	12,000
	【拡充】増頭のための空き牛舎改修等支援事業	県内の空き牛舎を改修して増頭する場合の費用に対して補助する。 (拡充) 既存牛舎の増改築を追加	J A	1/3 (市町村1/6) (上限1,500千円)	5,000
	【拡充】和子牛市場活性化事業	子牛市場活性化のため雌子牛全頭のゲノム育種価評価等の取組を支援する。 (拡充) 子牛品評会の首席雌牛に対する褒賞金を追加	鳥取県和牛生産者連絡協議会	1/2	11,750
	鳥取和牛緊急増頭対策事業	鳥取和牛を大幅に生産拡大するため、県が別に定める基準額以上で肥育素牛を購入した場合に購入額から基準額を減じた金額の1/2を補助する。	J A	1/2 (上限175千円)	休止
改良	県内ゲノム優良雌牛保留対策事業	県が別に定める基準値以上のゲノム育種価または期待育種価を有する雌子牛を県内保留あるいは導入した経費に対して補助する。 基準値以上のゲノム育種価または期待育種価を有する雌子牛の中でも特に優秀な雌子牛の県内保留を支援する。 自家保留: 定額500千円 導入牛: 800千円以内	J A	定額120千円	18,400
	優秀受精卵購入助成事業	県が定める血統の受精卵を購入し、年度内に移植した場合に補助を行う。	J A	1/2 (上限20千円/頭)	
その他	鳥取県和牛振興会議	振興計画の内容確認や進捗管理を行う会議の旅費、報償費。	県	定額	586
合計					69,584

3 事業目標・取組状況・改善点

(1) 事業目標

鳥取県農業生産1千億円達成プラン及び鳥取県和牛振興計画に掲げる繁殖雌牛7,000頭、肥育出荷頭数5,000頭(令和5年)の目標達成により、鳥取県の和牛振興を図る。

(2) 取組状況・改善点

- 令和2年10月に鳥取県産和牛の保護及び振興に関する条例を制定、その条例に基づく和牛振興計画を令和3年4月に作成し、その計画に沿った事業を実施している。
- 繁殖雌牛頭数は、令和3年に当初目標の5,000頭を達成し、令和4年は5,186頭と順調に増加したが、牛を飼養するスペースが不足していることから、空き牛舎の改修に加えて牛舎の増改築に向かえるように事業を拡充する。
- 鳥取県は令和2年及び3年に和子牛市場の子牛平均取引価格が日本一となった。今後も和子牛市場の活性化を図るため、さらなる支援策を講じる。

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他 <基金繰入金>	一般財源	
(新) 鳥取和牛肉質日本一奪還に向けた総合戦略事業	6,577	0	6,577			6,577		
トータルコスト	13,594千円(前年度 0千円) [正職員:0.9人]							
主な業務内容	補助金交付事務、事業実施主体との協議・調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ(令和5年度:子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内)							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
令和9年に北海道で開催される第13回全共で鳥取県が確実に勝利するため、全共候補牛の作出技術、選抜技術、仕上げ技術を向上させるために必要な経費について助成する。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位:千円)								
内容		実施主体	負担割合	予算額				
(1) 技術者レベルアップ事業 種牛区で常勝軍団である鹿児島県及び宮崎県の技術員から全共出品にかかる技術を学び鳥取県独自の技術を構築する。		第13回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会  (事務局:公益社団法人鳥取県畜産推進機構)	県1/2以内	1,805				
(2) 採卵協力費 優秀な雌牛から採卵を行う際の協力費(生産補償と採卵経費)				3,601				
(3) 県共進会報償費 県共進会においてグランドチャンピオンを取った牛を出品した地域への報償費				500				
(4) 高等登録牛倍増計画事業 高等登録の受審料を助成することで県内の高等登録牛を倍増させ、第5区(高等登録群)の全共候補牛の数を増やす。				100				
(5) 地域出品対策協議会活動費 地域出品対策協議会の活動費への助成(3協議会)				331				
(6) 生産振興大会 肉用牛振興大会開催経費の助成				74				
(7) 事務局経費 推進委員会、出品対策部会、巡回経費の助成、県共進会新賞グッズ等				166				
合計				6,577				
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標 第13回北海道全共で肉質日本一を奪還し、鳥取和牛のブランド力を高める。								
(2) 取組状況・改善点 ・第12回鹿児島全共では、種牛区の3出品区で前回を上回る成績となるなど一定の成果を残したものの、肉牛区で目標の肉質日本一を獲得できなかった。令和4年10月27日に第13回北海道全共に向けた戦略会議を開催するなど協議を進めた結果、候補牛を生産するための受精卵技術、選畜の技術、育成指導技術などの技術力の強化が必要となった。 ・第13回北海道全共で肉質日本一を奪還し、鳥取の和牛ブランドをさらに強固に進めるとともに、鳥取和牛の技術力を全国にアピールし、「和牛といえば鳥取」と認知されるよう取り組んでいく。								

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
県優良種雄牛造成事業	(債務負担行為) 329 28,724	(債務負担行為) 329 27,724	(債務負担行為) 0 1,000			(債務負担行為) <基金繰入金> 329 <基金繰入金等> 28,724		
トータルコスト	41,979千円(前年度 41,130千円) [正職員:1.7人]							
主な業務内容	改良委員会業務 改良基礎雌牛整備業務 種雄牛購入及び調整等業務 基金及び補填等業務							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ							

事業内容の説明 【財源内訳「その他」の内訳】 基金繰入金：28,669、受託事業収入：55

### 1 事業の目的、概要

優良な県種雄牛を造成するため、種雄牛を生産する雌牛群の確保、種雄候補牛の購入や協力農家への損失補償などを実施する。

### 2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	事業内容	予算額
育種価算出事業	県内繁殖雌牛の遺伝能力評価のための枝肉データの収集・育種価算出・農家へのデータ提供(委託事業)	2,142
候補牛購入(直検牛購入)	種雄候補となる雄子牛の購入経費 @1,296千円×5頭	6,480
後代検定用牛づくり	後代検定用の子牛を生産する農家に対して指定交配協力謝金を交付	4,620
後代検定手当	現場後代検定を行う肥育農家への検定牛導入協力費を交付	1,440
改良基礎雌牛整備費	種雄候補牛を生産する基礎雌牛を選定し、繁殖農家と1年間の保留契約を結ぶ	579
改良推進基金造成補助事業	種雄候補牛とならなかった子牛及び後代検定用に生産された子牛の価格を補償	6,363
後代検定牛経営補償費	肥育農家が飼育した後代検定牛の価格を再生産可能な額まで補償	4,868
遺伝性疾患検査料金	種雄候補牛及び基礎雌牛の遺伝性疾患にかかる検査料	1,177
育種牛血統保留推進費	育種組合が指定した鳥取特有血統の育種牛の産子を地域に保留を促す	1,000
標準事務費	優良種雄牛造成事業の進行管理	55
	合計	28,724

### 3 事業目標・取組状況・改善点

#### (1) 事業目標

「鳥取和牛」ブランドの確立のため、和牛改良目標の達成に必要な種雄牛の造成を図る。

#### (2) 取組状況・改善点

令和3年度は4頭の現場後代検定が終了し、優秀な種雄牛「百合鵬2」を選抜するとともに、令和4年度には、脂肪交雑能力が県歴代1位となる「菊花久」を選抜した。

### 4 債務負担行為限度額

令和5年度県優良種雄牛造成事業

事項	限度額
改良基礎雌牛整備事業(令和6年度)	令和5年度に改良基礎雌牛として1年間の保留契約する牛に対し、令和6年度に計画交配した際にその牛を所有する農家への協力謝金の支払債務に対するもの(329千円)
種雄牛造成和牛産肉能力検定肥育牛枝肉所得補償(令和6～7年度)	令和5年度に後代検定牛として肥育農家と契約した牛に対し、出荷時に販売価格が再生産可能額を下回った場合、当該再生産に必要な額から出荷日の3等級の平均枝肉価格に出荷牛の枝肉重量を乗じた額を減じた額

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取和牛出荷体制構築推進事業	4,283	4,275	8			<基金繰入金> 4,283		
トータルコスト	5,063千円(前年度 5,064千円) [正職員:0.1人]							
主な業務内容	周知説明、事前調査、調整・指導、実績確認・支払							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ(令和5年度:子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内)							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
鳥取和牛のブランド向上のため、第11回全国和牛能力共進会(平成29年)での「肉質日本一」獲得を契機に行っている全国が注目する首都圏(東京食肉市場)への鳥取和牛の出荷や共励会への参加、枝肉共励会の開催を支援する。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位:千円)								
区分	事業内容			実施主体	補助率	予算額		
東京市場出荷支援	【東京市場出荷支援】 東京食肉市場への肥育牛の出荷にかかる経費(運賃、旅費など)を助成			J A	1/2	2,340		
	【東京市場で開催される大規模共励会への参加支援】 東京食肉市場で開催される全農共励会や全国肉用牛枝肉共励会、特定種畜共励会への肥育牛の出荷にかかる経費(運賃、旅費)を助成				1/2	1,193		
県内外で開催する共励会開催支援	【共励会開催支援(県内)】 県内で鳥取和牛の共励会を開催するための経費(盾・賞状・衛生食品等)を助成			鳥取県牛肉販売協議会	1/2	250		
	【共励会開催支援(東京)】 東京食肉市場で鳥取和牛枝肉共励会を開催するための経費(盾・賞状作成・衛生食品等)を助成				定額(委託)	500		
合計						4,283		
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標 東京市場への鳥取和牛の出荷頭数の増頭を進める。								
(2) 取組状況・改善点 平成26年度と比較し、令和3年度は鳥取和牛の取扱店が1.3倍に増加している。まとまった頭数を定期的に東京市場に出荷する体制を整え、鳥取和牛のブランド向上を図る。								

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 畜産経営緊急救済事業	228,968	0	228,968	228,968				
トータルコスト	244,562千円 (前年度 0千円) [正職員: 2人]							
主な業務内容	補助金交付事務、事業実施主体との協議・調査・指導							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランド力アップ (令和5年度: 子牛生産頭数4,000頭、肉牛出荷頭数5,000頭、和子牛平均価格全国3位以内)							

事業内容の説明 【「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」充当事業】

### 1 事業の目的、概要

ウクライナ情勢や円安等により飼料価格が高騰し、県内畜産農家の経営を圧迫していることから、令和4年5月及び9月補正予算で対応してきたが、配合飼料価格は高止まりが続いている。このままでは国の配合飼料価格安定制度による補填金が交付されず生産者の実負担額の大幅な増加が見込まれることから、引き続き緊急支援を行う。

### 2 主な事業内容

(単位: 千円)

対象者	令和5年度 支援内容	補助率	事業実施主体	事業対象期間	予算額
酪農家	令和3年度の1頭あたりの飼料価格を基準として、基準価格を超えた飼料代の1/4を支援	1/4以内	大山乳業農業協同組合	令和5年4月～同年9月	170,794
養鶏農家	飼料価格の高騰により令和4年に損失が発生した農家について、配合飼料価格安定制度で補てんされる上限を超える農家負担の一部を支援	1/3以内	鳥取県養鶏協会等	令和5年4月～同年9月	47,250
肉牛、養豚農家	牛及び豚マルキン※で補てんされる上限を超える部分の一部を支援	1/2以内	(公社)鳥取県畜産推進機構	令和5年4月～同年9月	7,924
経営改善支援	飼料高騰等により資金繰りが悪化した農家に対する経営改善のための専門的経営コンサルタントによる指導費の一部を支援	1/3以内	県内JA等	令和4年4月～令和6年3月	3,000
計					228,968

※牛及び豚マルキン制度: 販売価格が生産費を下回った場合に、補てん金を交付する制度 (差額の9割補填)

### 3 事業目標・取組状況・改善点

#### (1) 事業目標

県内畜産農家の経営維持を図る。

#### (2) 取組状況・改善点

- 配合飼料だけでなく輸入牧草も含めて飼料価格が高騰したことから、国の配合飼料価格安定制度による補填金の支援に加えて、県独自に令和4年5月及び9月補正予算で支援を実施することで、畜産農家の廃業は回避できた。
- このまま飼料価格が高止まりが続けば国の補填金が出なくなることから、畜産農家は更に非常に厳しい状況となる。
- 取引価格への価格転嫁は徐々に進んでいるが、急激な飼料価格の上昇分をカバーするほどの価格転嫁は難しい状況であるため、飼料高騰について継続して支援を行う。



事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
畜産経営安定対策事業	72,961	45,485	27,476				72,961	
トータルコスト	76,860千円（前年度 49,428千円）〔正職員：0.5人〕							
主な業務内容	(1) 肉用牛肥育経営安定対策事業（補助金事務、事業実施主体との協議・事業進行管理、国等との調整） (2) 肉用子牛価格安定事業（補助金事務、事業実施主体との協議・事業進行管理、国等との調整） (3) 肉豚経営安定対策事業（周知説明・事前調査・申請報告の審査・指導調査・実績確認・支払）							
工程表の政策内容	子牛生産頭数・肉牛出荷頭数の増加と「鳥取和牛」の高価格販売によるブランドカアップ							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
肉用牛及び肉豚の枝肉価格、肉用子牛の取引価格が低落し、所得が低下した場合に交付金を交付して生産者の所得を確保する国の制度について、その財源である生産者積立金の一部を県が助成する。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位：千円)								
区分	事業内容	県補助率 (上限額)	予算額	前年度 当初予算額	前年度からの変更 点			
肉用牛肥育経営安定対策事業 (牛マルキン)	生産者補てん金の積立てに必要な生産者負担金の一部を支援	生産者負担金の 1/3 (積立金単価の 1/12)	48,741	20,789	積立金単価の増 (令和4年4月から適用)			
肉豚経営安定対策事業 (豚マルキン)			17,635	17,901				
肉用子牛価格安定事業 (子牛基金)	生産者補給金の交付に必要な積立金の一部を支援	積立金単価の 1/4	6,585	6,795				
合計			72,961	45,485				
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標 生産者負担への県補助を継続し、畜産農家が安定して経営できるよう支援する。								
(2) 取組状況・改善点 飼料や資材等が高騰して経営の継続が難しくなる中、生産者積立金の一部を県が補助することで、生産者の負担を軽減した。								

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
生乳増産対策支援事業	18,985	12,116	6,869				18,985	
トータルコスト	34,579千円（前年度 27,888千円）〔正職員：2人〕							
主な業務内容	補助金事務 事業実施主体との連絡調整、事業進行管理 国等との調整 調査							
工程表の政策内容	安定した生乳生産量を確保し、鳥取県産牛乳を原料とする製品の国内販売の増や輸出等によりブランド化を進める。							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
高品質な「白バラ牛乳」の増産やアイスクリーム等の乳製品の輸出量を大幅に増加させるために県内生乳生産量6万トン以上を確保することを目的に、県内乳用牛全頭のゲノム育種価検査を進めるとともに、生乳生産性向上や省力化に取り組む酪農家の施設・機械整備等を支援する。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位：千円)								
区分	事業内容	補助率等	予算額					
ゲノム育種価改良対策支援事業	有望な乳用牛の早期判定のため、育成牛全頭を対象としたゲノム育種価検査費用に対して補助する。	県1/3、大山乳業1/3 補助対象：乳用牛のゲノム育種価検査費用 事業実施期間：令和2年度～令和5年度	6,667					
担い手施設整備対策事業	生乳生産性向上に取り組む酪農家の施設・機械整備等の中で、国のクラスター事業の要件を満たしていない取組に対して補助する。	県1/3、市町村1/6 補助対象：生乳生産性向上や省エネ・省力化・暑熱対策に資する施設・機械整備等 ※事業費上限：500万円	1,666					
【燃油高騰対策】 (新)乳業工場省エネ推進事業	乳業工場の省エネ推進のため、太陽光発電システムの導入について支援する。	県1/5 補助対象：太陽光発電の機器、設備の購入経費、据付工事費	10,652					
合 計			18,985					
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標								
・県内生乳生産量6万トン以上を維持する。								
(2) 取組状況・改善点								
・担い手施設整備対策事業により、平成26年度から令和4年度までに29戸の農家が牛舎増改築や機械導入等を実施した。								
・令和2年度から始めたゲノム育種価改良対策支援事業では2か年で1,000頭以上の育成牛を検査し、乳牛の改良に貢献した。								
・平成29年度まで減少傾向であった生乳生産量が平成30年度は増加に転じており、令和2年には県が目標とする年間生乳生産量6万トンを達成し、令和3年、令和4年も維持している。								

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考						
				国庫支出金	起債	その他	一般財源							
(新) 生乳需給緩和対策事業(強い農業づくり総合支援交付金)	46,834	0	46,834	46,834										
トータルコスト	47,614千円(前年度 0千円) [正職員: 0.1人]													
主な業務内容	補助金事務													
工程表の政策内容	安定した生乳生産量を確保し、鳥取県産牛乳を原料とする製品の国内販売の増や輸出等によりブランド化を進める。													
事業内容の説明														
<b>1 事業の目的、概要</b>														
<p>生乳生産の拡大やコロナ禍による需給緩和の中、中国地方内で一体となって効率的な余乳処理を行うため、国庫補助事業(強い農業づくり総合支援交付金)を活用して特定乳製品(バター、脱脂粉乳等)の製造に係る施設整備を行う県内乳業工場を支援する。</p>														
<b>2 主な事業内容</b>														
<p><b>国事業：乳業再編等整備のうち需給調整拠点施設整備(強い農業づくり総合支援交付金)</b>  複数の都道府県で生産された生乳にかかる特定乳製品(バター、脱脂粉乳等)の製造施設の新設・増設を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国庫財源：国補助率1/3(間接補助事業)</li> <li>● 補助金の流れ：国→県→事業実施主体</li> <li>● 事業実施主体：大山乳業農業協同組合</li> </ul>														
(単位：千円)														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">整備内容</th> <th style="width: 33%;">事業費</th> <th style="width: 33%;">予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貯乳タンク バター製造機 配管工事等</td> <td style="text-align: center;">140,500千円</td> <td style="text-align: center;">46,834千円</td> </tr> </tbody> </table>									整備内容	事業費	予算額	貯乳タンク バター製造機 配管工事等	140,500千円	46,834千円
整備内容	事業費	予算額												
貯乳タンク バター製造機 配管工事等	140,500千円	46,834千円												
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>														
<p>(1) 事業目標 乳製品製造能力向上を目指す。</p> <p>(2) 取組状況・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による生乳の需給緩和の中、中国地方で発生した余乳(主に広島、岡山)の多くは九州で処理している。</li> <li>・輸送費も高騰しており、中国ブロックの余乳を確実に処理できる体制を整えるため、大山乳業に特定乳製品の製造に係る施設整備への支援を行う。</li> </ul>														

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考											
				国庫支出金	起債	その他	一般財源												
(新) 鳥取地どり増羽対策人材育成等事業	1,230	0	1,230				1,230												
トータルコスト	2,010千円(前年度 0千円) [正職員:0.1人]																		
主な業務内容	補助金事務																		
工程表の政策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥取和牛オレイン55」「鳥取地どりピヨ」「大山ルビー」など、美味しい鳥取ブランドの形成</li> <li>・付加価値の高い県産品ブランドの増産体制の構築</li> </ul>																		
事業内容の説明																			
<b>1 事業の目的、概要</b>																			
鳥取地どりの生産拡大に向け、ひな供給施設整備の検討及び人材育成に係る経費を支援する。																			
<b>2 主な事業内容</b>																			
事業実施主体：県内地どり生産者																			
事業期間：令和5年度～令和8年度																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業内容</th> <th>補助率</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひな生産施設整備の検討</td> <td>県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。</td> <td rowspan="2">県1/3 市1/6</td> <td>30千円</td> </tr> <tr> <td>増羽に向けた人材育成</td> <td>飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。</td> <td>1,200千円</td> </tr> </tbody> </table>									区分	事業内容	補助率	予算額	ひな生産施設整備の検討	県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。	県1/3 市1/6	30千円	増羽に向けた人材育成	飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。	1,200千円
区分	事業内容	補助率	予算額																
ひな生産施設整備の検討	県外種鶏場、ふ卵場等の視察経費を支援する。	県1/3 市1/6	30千円																
増羽に向けた人材育成	飼養管理を行う技術者育成に必要な経費を支援する。		1,200千円																
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>																			
(1) 事業目標																			
鳥取地どりの生産数2万羽/年を目指す。																			
(2) 取組状況・改善点																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取地どりは関西を中心に人気があり引き合いも強いが、令和3年度の生産数は12千羽と供給量が限定されており、需要に応えきれていない。</li> <li>・生産者の増羽意欲は高いことから、増羽に向けたひな供給体制の検討や飼養管理技術者の確保に向けて計画的に取り組む。</li> </ul>																			

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 肥料国産化に向けた施設整備事業	10,000	0	10,000				10,000	
トータルコスト	10,780千円(前年度 0千円) [正職員:0.1人]							
主な業務内容	補助金事務							
工程表の政策内容	—							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
家畜排せつ物や食料残渣などから高品質な堆肥を製造し、環境への負荷の少ない持続的な農畜産業の発展を図るため、老朽化した堆肥施設を再整備する。								
<b>2 主な事業内容</b>								
	区分	内容	実施主体	事業費	県補助率	予算額		
	土地造成支援	肥料製造施設整備及び改修に係る国庫補助対象外となる土地造成費への補助	JA等	940,000千円 (内、造成費30,000千円)	1/3	10,000千円		
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標 家畜排せつ物など地域資源を活用した肥料生産体制の構築。								
(2) 取組状況・改善点 ・家畜排せつ物の適正処理のため、共同堆肥施設が整備されているが、耐用年数を過ぎて老朽化が問題となっている。 ・一方で、肥料の安定確保のため、家畜排せつ物や野菜残渣、石炭灰など地域資源の有効活用の動きが高まっている。 ・このため、国事業を活用して共同堆肥施設の整備や改修を行い、家畜排せつ物の安定処理と化学肥料を混ぜた混合堆肥複合肥料のペレット化等による安定供給を図る。								

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 第16回 全日本ホルスタイン共進会 対策事業	1,061	0	1,061				1,061	
トータルコスト	1,841千円(前年度 0千円) [正職員:0.1人]							
主な業務内容	補助金事務							
工程表の政策内容	安定した生乳生産量を確保し、鳥取県産牛乳を原料とする製品の国内販売の増や輸出等によりブランド化を進める。							
事業内容の説明								
<b>1 事業の目的、概要</b>								
鳥取県の乳牛改良を大幅に促進し、白バラブランドの更なるイメージアップを図るため、令和7年度に北海道で開催される第16回全日本ホルスタイン共進会(以下、ホル全共という。)での上位入賞を目指す。								
<b>2 主な事業内容</b>								
(単位:千円)								
区分	事業内容	実施主体	事業費	予算額	補助率			
ホルスタイン全 共総合対策事業	・輸入受精卵雌牛からの受精卵 採取及び移植 ・県外共進会への出品補助 ・出品者研修費用	全日本ホルスタイン共進会 対策委員会 (事務局:大山乳業)	2,122	1,061	県1/2			
<b>3 事業目標・取組状況・改善点</b>								
(1) 事業目標 全日本ホルスタイン共進会での上位入賞を果たす。								
(2) 取組状況・改善点 ・従来の本県のホル全共に対する取組は、開催前年に候補牛を選抜し、県の共進会で出品牛を決定するという方法であり、改良方針や交配による牛づくりは農家任せとしていたが、令和2年第15回宮崎大会に向けては、平成28年9月補正で輸入受精卵を導入し、大会に向けて全共候補牛の改良に計画的に取り組んだ。 ・第15回大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、事業で導入した輸入受精卵から生まれた雌牛及びその娘牛から受精卵を採取し、令和7年第16回大会においても活用する。								